世帯佛法

渡世身持談義 一

百八拾八

蓑田

共五

溝口氏藏書之印

遠13
652
1

遠へ門
692
巻 1

明治三六年九月十一日購求

序

各我が子孫の不始末者いこ季の際より
用ゐを受く修羅を燃やとて他の成立るを
非ず己が者己と責是ゆ近来色道賞る亦
諸勝負のこゝろ扨費より新いれども世三損
未迄あつく借財乃渕に沉淪を是ゆ拙
乃ゝ法の世界勤年の智者の教を従ひて
家業を弥く金銀を費とて石は多し者く
始末質朴乃宗門を勧めく安楽世界

家の内に妻子従類と倶に一事を以て安心なさしうんと世尊仏法を弘め貧苦乃渋れ助とする是偏に面々常住紙のみれ談義説法鶏の尾まぐ拵ど始末を肝要に一文も仇にすべからず銭を之十方を照らしたまふ嘘いれし者をのらぐ仏〳〵

作者
真積

渡世身持諸義

一之巻目録

第一　抜目のない始末上人

勧略する始末上人
無欲を物を邪欲

抜目のない始末は義きれ渡世業業

さ時ハ　秋い結酒よりも紙して人を楽しめ
つまり恵酒小盃て信徒の測み
くまりとそそ始末の邪欲と勧て
上界上界仏上界仏上界と演説を

才二　世間の貧し嫁に寝覚れし安い家の経言

世間ハ

外面似菩門如所知の如の
の奏より内化い大行まれ水の
上より伝るめさ不姑主と伝働る

才三　夫まる家と棒にする傾城覚れ力競

世間ハ

色よ迷ふ元夫釈の億りの都屋
浅と雲て絡よ三男を居妻
裸にする要文を伝聞せり

後世外持伝義一之巻

(一) 接目のない姑主れ徒義主での強い世帯系
真又母稼穡よ勤労ふ仕ぐ。甚る稼穡の銀銀ふ知ぐ。
乃色して乃請し法よ誕ふと。先賢の語冥ふ知ふ。祝い簾
合簾眼ふて。外の脂を出し。豆秋法世よ沖ふなく働ふ。
一代よ稼出ふく。隣町まで。かふれるき福祉の外となれで。
ふるのいすれ出るふ。伝のよ不足ふ外るれば。崩いのふ
踊く。法氣ふ力を毒。花東風法とぬ。酒婬ふ二ふ
家と洗し。美彩の外ふなふふの。世界よ業人と行報と
ふふど。すぐふ町人い金伝ぐ系図ふて。ぐ町人れ中ふて。
別よ伝ある人ぐぬ。ふらひあぐめらるいひふよ金伝ふ感
老ぐふ。三世相に学ふ。第せうそい赤帝の市ふ也。北平の

ろくそんやうち。栗こうこ。白銀十貫文百二十貫文ぶんと
更ぶく。今世にはるくらと。慥よあいだくそこれがあてふいるぐ。我人
はれ出る不い裸るし仕ぞ。此の家業よりぶんかく。長者程にして入
くそ迄で人の分限よりめる。仕合として不行。強い面との智恵者と
いく拵い。その家栄ある事。ろくべんとすれ。金銀さんあいだん
極楽ろ人あれと多き仕業。出はてやっけうろ。強く費ある
こ人をと仕出ひ。一は貧者よりやうろ。ろくろ分の不足ぶ。毒ふとに
所用迄ぬ用とさすう事でし。家ふ絶の商人れ一るナこして銀く
とるれ。之本借宅るれいゆづりとうくべき家よりゆ。五百貫余の借銀と
ゆづりあられて。次と不とろ近くそ尾ぬと。焼ろうんぴるう利て
も蕃さ天性とえろうち。ろうち銀百貫。中れくそ利すいるてゆきき
ろれい。銀ととらくできナこいて額よ角を入銀の仕仙せの借銀を

高ひ。銀又志学がうろうて。ぬおのゆろあよまろぶい高よ酒ひと
して。ろる利とろんと。ぬろ銀とおし。一升の酒ろあ二合づ加へ。樽の底
汁とおさて変ろれいべろこわ流古酒のゆ入て。春ときのこあろこと
あ。祝い一巳い賞人酔され。利とひろあるれ。強まへ変酔て酒
い高ひうすぬ。ぬ迄で酒よかぎずぬ。ぬこて変粗よ。根と
して。ろあいあ。ぬ酒ろあんと利とろて。ろいぬおろうよく
うまゆしと行ぐふゆうかものろしいべんより利とすうろ入て。変粗よ
金と入ぬ。変て変でうけうけう家角でうけきべ。始終高ひ店い
づうねものろ。銀又の内絶ろあさいろ銀と。一升て新ぐ。白し
利とろて。酒と入ろるとよして。変ろしいべ。みは公家の
ものぬ。結て変ろあ。たのまひどいろ巳て。銀又の仕ようを稽新
変おしぬい清酒とやうて。ぬおい変次とろ知て。よ造ろけ清酒二

ちまろのだんざえもん
せたいれんぎ
ちょいらくんどう
ちまろ

[illegible]冊浄地ゐて[illegible]ね[illegible]ぬ[illegible]の林大木[illegible]ぬ[illegible]戸八畝[illegible]丈大分
[illegible]記の仕くぶり[illegible]ぬ[illegible]て四十九丈ばかり[illegible]ぬて五万あまり[illegible]
のことなれ。全くの方作と所門に[illegible]ぬ[illegible]天神山下紙[illegible]
有法上人[illegible]とれ。却ての[illegible]楽場拵して[illegible]の河の[illegible]方とも
[illegible]抔のなて世ひろめて。[illegible]引[illegible][illegible]若[illegible]ものを[illegible]
[illegible]も[illegible]ぬ[illegible]も去所[illegible]所代[illegible]とうて。浮世安[illegible]の法[illegible]と速[illegible]家
業と[illegible]略ゐて[illegible]塚ぐるひ或い法結[illegible]て。[illegible]の[illegible]流
[illegible]と[illegible]ける業と助[illegible]。一七日世界[illegible]法ひろめんと全[illegible]
さ[illegible]世界のすぐつひ浮世の[illegible]ハ[illegible]八[illegible]の中に[illegible]く僅か高人
[illegible]業いぶんなく抔出て。今一家の上人とわづ[illegible]も[illegible]と[illegible]
和尚達。[illegible]抔門の性[illegible]眼とちし[illegible]家[illegible]の切[illegible]上人
[illegible]法の得と[illegible]て[illegible]ぬ[illegible]結[illegible]。あて[illegible]代を

法と人[illegible]。[illegible]業に浮世の利害と従て[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]才一[illegible]に[illegible]。始末上人を一流の[illegible]と招き[illegible]
後[illegible]て[illegible]去所の[illegible]代上[illegible]
面ある。始末上人風の[illegible]
とうけ。拵[illegible]に火を[illegible]て[illegible]身が[illegible]始
末上人とよび[illegible]親[illegible]仕[illegible]世の高い[illegible]
始末せずていすりけ湯て[illegible]世界に[illegible]入[illegible]。全くの方と[illegible]
[illegible]抔[illegible]ぐ親い[illegible]
と[illegible]人[illegible]食[illegible]和入[illegible]
[illegible]ふ[illegible]仕[illegible]方代[illegible]向の[illegible]と[illegible]代[illegible]の[illegible]と人[illegible]
て[illegible]屋[illegible]力して果[illegible]れ親[illegible]て[illegible]
焼の作[illegible]神[illegible]の[illegible]世界と[illegible]

も一筋うて仕舞ひしが、地よりうてながらるけさべ、ぞ二の足出し
み、駅よりあるく程出つかり、ぐ、ぬ、て、ぬ、ぬ、て、ぬ、ぬ、本線の越
中褌すてけ、さ、ら、ら、ぞ。え、来一筋も、ぬ、せ、るけさべ、の、高ひすぐ
き、力、ま、ま、ぞ。肩、ぬ、ぬ、を、ま、て、ぬ、ら、ひ、高、ひ、と、て、も、白、と、ら、ま、ぬ、ぬ、方、ぬ
ハ、夏、る、ひ、ひ、毋、波、布、の、帷、ま、ま、ま

佐ゝい始末とゆう者とやちつくめるに今始てらゝさすせるふ
うつるどゝ分おもの者れとそて打そこの見るとゝまひ者
必一門をたゝポゝく出人の者と懐ゝ祥とあ仏と新ゝ楽ゝとあゝ他
人の者ゝとかゝどゝ者る事ゝて商業ゝゆゝんゝく抜出て富者ゝにゝるゝの
ゝと倹約と守ゝる始末者ゝとゝうゝの也半俗の始末の二ゝふの立流い吾嘗
ゝて世の者ゝとゝうきゝとゝつさまゝどゝ角で二篇に今と湯ゝるのゝ工夫て
釈のゝゝいゝおゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ嘗ゝゝのいきゝゝ今世ゝゝに関係い
微大ゝて面ゝゝゝゝ世ゝ身ゝゝゝゝ絶ゝゝゝゝ決男ゝ継ゝ打ゝゝゝ世ゝ所
始ゝゝゝ乗ゝるの打ゝけゝゝ世者ゝゝるゝゝ者ゝゝて者ゝゝん
こゝゝゝ角ゝゝ者の湯新楊ゝゝゝ目ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝと作ゝゝゝ者ゝゝゝゝ祥ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ者ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さて法師二人ばかりぞ残りたる。始末二人候ぬるに打
うちして、初後義と法師とぞ残りたる。されば、この世界は、
かけ徳なりて、極楽世界は、法師服令れたり。あらぐるこの人のうつ涙
世のなかとけと仕ぶるものかなりき

(二) 世尊の花嫁法師の会の公安い名の祝言

始末二回 今昔、釈尊の御時に、世尊と申すうんとうの世の事と申す
来世の仏法の為に、涙を流して、迦葉の世、おのれ、花嫁法師の会の公安い名の祝言
不審をとぶらへと思ひて、花嫁法師の会の公安い名の祝言
一切衆生の大海の衆生の信仰にこつかれて、世を思ひ、人の業
とやきそ、ゆ、れ、人、行て、世尊、あてを、ふ、ま、ま、
ものでいは、世尊、ま、ま、きこの、ねぶ、ま、ま、
つまびらきして、弟子、法師、花嫁法師の会の公安い名の祝言

面を添さあ時に、会伝へて、あ、ま、ま、
祈之日の、胸を、ま、ま、ま、
ずて、ま、ま、ま、ま、
角、ま、ま、ま、ま、
問、ま、ま、ま、ま、
行て、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、
ま

尺ほどの間にて一門招請して二つ地獄門板にて三角の紙
面の形にて後の上に世にいまだ者とこそ程門前のつるさおいに
はれいつてはいつもとめぐり。日和見の紙のごとく打見て楽さ
てなのかいかしはいろうずる。公力とうして年とよりたる。尺ほどき世は多
くござる。対夫婦入ぢうの姫おん人我ろ格きき聞とをこの男をある
親いとのかうろ語者といつるく人の姫を嫁にとめる。仲人と求てあがひよ
世ろとはくろうて。ぢんの考をれ入るなど紙米のあて。結納の役義お
びたてくいろ高ひてふるひ。これば嫁の方へ式ぐし稽ひてあつけてお
合。ゑひ本ひ男たちと拍くうて臣たちつ酒と注てこと上にてこがの
ため徒とこくもついて本ろ女にてはこうろ程役義とこうせいこ酒て
万方ふるけて。三田二の婿ふれすは色たと恨びやゑ嫁れのおとるれ。嫁
の家内い万物のごとく嫁ふうべ姫でのはこのすくに男子を入の年

入ておとの家ふかつてあで。関猫法一はこ鶴の屋ふ徒者こうとはこ
也柄くこいはふて生こあがうこの白毒姫はいはけよこうこのぐ中拍ふりと
ぢうさ。猫毒ふ也柄ふ拍の屋風。神家の変ゑ納ぢ門きぐんとくお体を
ゑれいび捨ふいにおりでたはよなないかくふひとこれの病上下ふ変ふう
横ゑめて。ふまなふ人ふ二人ふるよお袋いは毒ふ紙つて。ふれ宝と付。
也の見ふいよいう。裏の半ふ面ふ嫁ふ者ふ拍ぶ。なここと也いこうこうの
とつくは細ふい拍ぶゑてくわろ。鶴の拍を備ふひこれ。ゆこれ者柳ふ
戸とこうふまふてとけ。ゆとい紙ふ屋ふ表れ屋ぶ。ふよこゆこでゑ。ぐめ門
のこ戸こうふ也ふめて面ふ。ふて打させておこうて。閉こうすこの屋をまつ。雄の拍
ぶてこの紙ふ面ふらすき紙つこ。ゆ変ふて玄ふ拍てこつくこの拍ふらこも拍
の役ゑ。ふここうの中拍ふ紙ふ。ふれこ。ふこぶう拍ふ。ふかこれ月ふかこふ
きぶ。紙の中ふ面ふ。ふ中ふ世紙ふれこ。ぶんふ奥ふ面ふの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義とろくにものおよび人義白煙ふんをろい稀也。名誉より重る也
だりに義兼にはせりけ。名無にて人の和とられ人公より申ばどのれ
ゲ身を怪こ。妻と省き倹約をすり。物事心掛にとれば世をゆと
かよわくろ事るろに。暮しのも者れ。ぺくにてやされ。ろ吹のがされ
て。お無よろ見ひろげ。ちぐちゆるゆさにどのづろ。恰世のゆ身代と
ろつち。年中ろ身の和人ひとさひろ。ぺどろく問屋よ。穴のわくゆを
もふろど。ゆの破滅といるれろ。地で人い倹約をすり。身と稼ゆ
仕付ろと。奏如をい仕よさのなり。落つけてとびろよろをろけ
ろ身代と。儀ゆ人を減し。猟者ろ。常給和と本線布ま
ふい仕人わくきりのそ巳。ゆ手おろ。ろでい拵ぺづろと。秋し。胸
ふ身ゆ。儀ゆ新田金山ろろ。すりけて。倍れを埋せる。尾を
見せまいとさゆくれるすびろそ。ゆすさろるさいそいよく。換紙。

妻子の扶を負せろ。つき。て。紙ぐ。紙ぐ。紙ぐ

ゐい張をのれ心業がゆる要なり。ゆゑに仕合にぬゆけばやかゆけ
なる天をも怕ぢず雷をも怕ぢず。ひとしらと身を捨ずいとたゝかふとゝ
らひ。一代の雷あり。しかるに拵て仕合と仕る紙と事わかるほど。
我とづゝとゝんくぎる。勇と云るすいわゆるなるせんさく。天地のゆゑ
人といわいすぐれたるとく。夫婦姫と結べるのゆゑしごきのさきい
人とのせてにとるさるかる。雷鳴。拵出して今日いこれ肩ゆ。奮て。ゆれ
れといるゝ仕合いぬい人ゝ吉凶神祟し変化して変りあるといふべゝ
ず。そのまゝ人合ゝいて。そ家ゆゑ。むゆゆゆと。ゝて。ゆゆ。一度拵おし
ゝ。ゝゆゆて。妻ゝし。ゝゆゆ。ゝゆゆゝゝて。ゝゆゆ。ゝゆゆゝゝ。ゝゆゆ。ゝゆゆゝゝ。ゝゆゆ。ゝゆゆゝゝ

い藤として。毎年高ひがそうて世ろぐ行つてくるこの法こそいかさま藤まと。
京はみ万八多郷といひつ長ひ昔ばれる。今い民家でさて世万八多郷しまえ
べしげ人数美福沼ば。緑し数の王と恰ぬりのひらもまく松さて緑
ぜい家いい法このかいは。元商ひがうてゆのをいて場ぐをろうて西ろべ
さやせいふきき和い沼といふいよい西とひらくえねゆくせいふき和い沼せその
西い系とけぐや法ふをいて班年い系。世男の数百月ふろて知れろ
るひろ業ふきこの不い抜庭まが。右ろいて月のりとくいべ不被の関
角くいい不も。今い風ふをさみ明ども。ひけ。ひ王の郷ろく四角もんれ。
のふ岳いさのをいつど。湖の沙中海生人も睦見結とまて郷も家
もなりろりと使。浦の名ひ角と見せろけおくもつきく依
や。橋ば数と郷よおせろひ人で。ふの法くめふが。賢招ひくいア
りてゆひのせふ丸と考くて。影おいゆくそひくもやうくいハ文拓角ひて色

不今い家地の家くらつぐき。ろう料れ重屋に明湯焼の匂ひのて沼
機焼れ小方の数。ろこ系の考もゆくふ隅くまでし彩と重べておざひ人
ま。元今和世い多くうして伝をふて彩れくい彩ふ家とつろうまごん
や。ろくいべ世ふまと元沼沼ひ人沼ふ今沼とひ人沼ふとのく抗家業に
ゆぐれてわそびろれて情の人ゆろしいびけふとうて材ふ拓無行ま家
業に名とこめてはとふ人なぐ。ひけらはまぎれでるつくせろの仕
おくとんるふ色事と猪角ろ。堂重年くうろて百年もてゆべき
家と儀ま自滅さするの。釈の新七栄羅にそぐらおがろけてせ
はのくくれくといつるまとろくろ。傾城ぐるひま釈の数年貯重作
今沼。沼我和ようる和と盗つひみて。西にて久しく福者といそれ
しま。法来いるまにあくなりぽまりそぐされと。利ふやすして第八
の沼とおろけ。退跡いて郷けさぐじくも。ろやこうて。つね沼を

[illegible]とゆうて内儀のふ[illegible]ゆうたぐらわど
[illegible]今ゆく親仁の言いたこの親孫とゝぐ[illegible]老をいたれ為代ひす
子の亟おぐるひよりて老の人あよ[illegible]月ゆるるあこあらく事。悴ぐらぐ
[illegible]ふいわびゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

紙をかぶりて、ひとりの侍、手をとらへ、ひとりの法師、元合の仕
うひなくて、ものしれる命の死もくやまず、果方知れぬ業病の
あけて悔しきまでもとめあぐるあるべきことを
こころをやすくして、一安堂のうちにて、せてあり、冊棚さびたる
さしたるひとり、春ごまをあつめて、脇ちかくて、棚はうそ脇ちかくて、
かかるに、おさなくして、あまたの、高ひのもと、幕張りて、
来る情の人むすこ、ゆづりひとを、解ずして、家をとて、物をあるこ
して、家ひとりかくつこ、ちらのよせらるいたくるの、おとこ、
きてさんまを、沖をていらるかれとつるのあるの、紙接ぎ
軍書の中にて、あるとおもふ、呉人をあくて、後ぞ、古事に
いとくあるまれ、年よりて、松茸うへ、ちつろひるる、和、蝶屋と
腹屋の幕おする、家屋あらたにくるの、物なくけるか。

抑蝶屋といふ、ひとりあるあり、彼、そのいんにゆひて、感じ、
こそ、初て、細ある、後、ひとり、侍、幕に、二の蝶と、付い、一、
いてはいつ、咲、侍、ものとは、ひとりあり、ひとりあり、彼、
世、ひとり、身を、あ、て、い、住、ぬ、ぎ、ろ、和、者、て、甲、て、時、関、事、て、い、さ、し、ば、の、蝶
百の、の、見、と、おもて、さ、人、侍、よ、は、命、と、つ、ぐ、ん、て、物、屋、と、の、く、ら、と、と、和、蝶
人、ひ、と、し、る、ま、に、おいて、や、為、て、来、て、い、女、て、て、る、ら、見、ひ、ら、て、ま、ど、い、れ、た、
和、く、が、八、の、ら、見、て、の、の、蝶、わ、ど、百、れ、ら、見、に、間、ど、ど、川、春、ひ、て、持、ば、べ、ま、て、
川、寅、よ、紀、る、我、い、の、れ、一、見、て、て、安、い、ら、ひ、い、ら、た、人、い、ら、る、て、侍、て、ら、れ、る、和、と、ね
の、侍、に、付、し、侍、る、ま、の、時、吾、と、の、ま、て、て、ま、ら、て、て、ま、ら、て、て、ま、ら